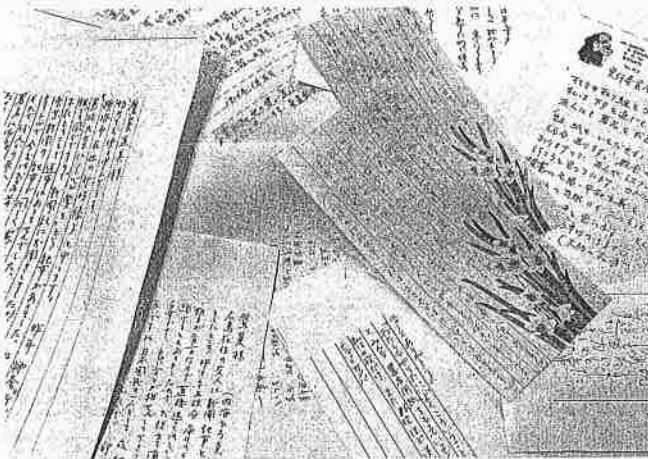


「改憲阻止に外圧妙手」

神奈川県座間市の主婦鷹巣直美さん(ミヅ)が一人で始めた「憲法九条にノーベル平和賞を」という活動で、二万四千八百八十七の署名が集まり、ノーベル委員会への推薦を済ませた。「改憲に傾く安倍政権を、国際的な力で穏便に止める妙手だ」と期待の声が上がる。(出田阿生)



「憲法9条にノーベル平和賞を」実行委員会に市民から寄せられたメッセージ

「9条にノーベル平和賞を」署名2万超

二〇一二年の欧州連合(EU)の受賞がヒントだった。鷹巣さんが署名活動を始めたのは昨年一月。次第に人が集まり、八月に市民実行委員会ができた。問題は、ノーベル委が認めた賞への推薦人を探すことだったが、推薦人の資格を持つ学者らが関心を持ってくれた。結局、今月一日のノーベル委の締め切りまでに、学者ら四十二人が推薦人に名を連ねた。個人か団体でなければ受賞できないので、実際は「憲法九条」ではなく、「九条を保持する日本国民」という形で推薦された。

過去の平和賞受賞者

- 2005年 国際原子力機関、エルバラダイ事務局長
- 06年 グラミン銀行、創設者ムハマド・ユヌス氏(バングラデシュ)
- 07年 「気候変動に関する政府間パネル」、ゴア元米副大統領
- 08年 アハティサーリ元フィンランド大統領
- 09年 オバマ米大統領
- 10年 民主活動家の劉曉波氏(中国)
- 11年 サリーフ・リベリア大統領ら女性3人
- 12年 欧州連合(EU)

改憲を目指す安倍政権への危機感がにじむものも。太平洋戦争の体験者からは「八十九歳で、少年時代から戦争だった。約七十年平和が続いているのは憲法のおかげ」「敗戦の年に満十歳で、空襲や機銃掃射で怖い思いをした。こんなことはもうごめんだ」。若い世代からも「日頃、憲法を考えない人にも目を向けてもらうきっかけになる」という声寄せられた。署名も受賞を後押しする一定の効果がありそうだ。代表として受け取るのは安

一人でノーベル委事務局に問い合わせるときには、何の反応もなかったが、多数の署名を添えてメールを送ると、すぐに返信があった。鷹巣さんは「地味なようで、署名の力が大きいことに驚いた」。過去の受賞者を見ると、政治色が非常に濃いことが分かる。非核三原則制定が評価されて日本人で初めてノーベル平和賞を授与されたのは佐藤栄作元首相だった。「核武装に原則的には反対していなかった」という批判も絶えないが、受賞が「非核三原則」を守らせることに一役買っているという意見もある。

「九条」受賞で、国民の「自民党の改憲草案には、米国をはじめ世界各国が危機感を抱いている。九条保持は世界の願い。平和賞は外圧とはいえない内政干渉にはならない。改憲を阻止する妙手といえますよ」。実行委は今年、平和賞を逃してもあきらめない。来年も見据え、署名や推薦人集めの活動を続ける。

米軍

重なる負担を我慢する「日米同盟」(林啓太)

画に



神奈川・横須賀で停泊中の米海軍艦船をバックに、サンタ姿で募金を呼び掛けるバクレーさんら

れた」

し、随所に皮肉を込める。米ロサンゼルスでの一場面。バクレーさんが市民を呼び止め、「米国に外国軍が駐留し、経費を負担しているのを知っているかい。西海岸のラク人を殺して中東から石油を取ってきてくれた。在日米軍を思いやってくれよ」といわれる「ほめ殺し」だ。「米軍の憲兵も日本の警察も文句を言いつらいでしょ」

「EUS」の追跡

料理

水戸借楽園 梅まつり

日本に3つの「目の温泉」 平日限定 奥湯沢の秘湯 貝掛温泉